

## 第1章 産業カウンセラーの役割と活動

- 専門的援助活動としてのカウンセリングは20世紀初頭のアメリカで起こり、発展してきた。
- カウンセリングのルーツは、①職業指導運動、②教育測定運動、③精神衛生運動の3つの社会運動で、3大源流と呼ばれている。
- ボストンで職業カウンセリングを開始したのは職業指導運動家のパーソンズである。
- 1909年に『職業の選択』が出版され、科学的な職業選択とカウンセラーの働きを説明した。
- 「すべて存在するものは量的に存在する。量的に存在するものはこれを測定することができる」というスローガンを発表したのはソーンダイクである。
- フランスの心理学者ビネーは、史上はじめての知能検査を開発した。
- 知能指数（IQ）はターマンらによって導入された。
- 教育測定運動は職業指導運動と合体しつつ、特性因子理論へと発展した。
- 精神衛生運動家のピアーズは著書『わが魂にあうまで』を出版した。

- **マイヤー、ジェームス、ウェルシュ**の援助により精神衛生運動は世界的な規模に広がった。
- ハーバード大学の**メイヨー、レスリスバーガー**らによってなされた**ホーソン実験**により、能率や生産性向上のカギは職場の人間関係ではないかということが明らかになった。
- 精神科医の**アンダーソン**は**メーシーズ百貨店**で従業員のカウンセリングを行い、勤務態度の向上につなげた。
- テネシー州の**オークリッジ工場**は社員寮に専属のカウンセラーを配置し、精神的ケアを図った。
- 大手トラクターメーカーの**キャタピラー**は従業員の定着と健康改善を図るための計画を進め、職場不応の改善や災害防止などに大きな効果が認められた。
- カウンセリングの理論と技法は **1950** 年代後半に**日本電信電話公社**によって日本に導入された。
- 日本産業カウンセラー協会は **1960** 年 11 月に任意団体としての設立が決議された。
- 1961 年に**ロジャーズ**と**スーパー**が来日し、産業カウンセリングの発展に大きな影響を与えた。
- **1970** 年に協会は労働省から公益法人として認可され、現在の社団法人日本産業カウンセラー協会が誕生した。

- 協会は 2008 年 9 月に A D R センターの認証を受け、社会に責任をもつ集団として確固とした地位を築いた。
- アメリカで生まれた E A P は、1940 年代に従業員のアルコール依存症による企業損失の対策として始められた。
- 日本に E A P が紹介されたのは 1980 年代の終わりごろで、最初に導入した企業はモトローラ日本法人といわれている。
- 短期カウンセリングは、E A P の特徴である。
- 産業カウンセリングは、産業組織で働く人びとの人間的成長を援助することを目的とする。
- カウンセリングがめざす個人の自己実現とは、「社会のなかでその人なりに最高に機能できる自発的で独立した人となることをめざす志向性」を意味する。
- 産業カウンセリングは働く人びととその家族を対象とする。
- 産業カウンセリングは、現に働いている人だけでなく、働くことを求めている人にも進路指導や職業選択などの援助を行う。

- 産業カウンセラーの基本的姿勢は人間尊重であり、一人ひとりの独自性を尊重し、きちんと受けとめていくことが求められる。
- 産業カウンセラーは社会人としての健全性、さらに幅広い人権感覚を養うことが求められる。
- クライアントとの信頼関係確立のため、守秘義務やインフォームド・コンセントについては細心の注意を払わなければならない。
- 一次予防とはメンタルヘルス不調の予防と、心の健康の保持増進である。
- 二次予防とはメンタルヘルス不調に対する早期発見とそのケアである。
- 三次予防とは復職支援・再発予防をいう。
- 人間関係開発への援助は、グループまたは個人に対してのアプローチとして行われ、組織開発的傾向のものと対人関係開発的傾向のものがある。
- 組織開発は人間関係能力と集団的能力の開発とに分けられ、グループダイナミクスの効果を期待して行う。
- 産業カウンセラーへの相談内容は、人生設計、キャリア形成、メンタルヘルス不調、情報収集など多岐にわたる。

- 産業カウンセラーの活動は、協働・連携・リファーなどによって多くの資源を活用しながら、組織的に実施していくことが望ましい。

